

貨幣経済化の潮流のなかの社会性

インドネシア・フローレス島中央山岳部における絨織の社会的生に焦点をあてて

青木恵理子（龍谷大学）

発表者は、1979年から現在まで、中断期を置いて、インドネシア東南部のフローレス島中央山岳部のズパドリ村(仮名)でフィールドワークを遂行し、地域社会における変化を経験してきた。特筆すべき変化は、1980年代後半から起こった貨幣経済化である。それまで全く行われてなかった肉体労働を主とする賃金労働が、マレーシアへの不法移民労働という形で行われるようになった。ほぼ同時期に、商品作物の栽培がおこなわれ、現金収入がもたらされるようになった。以上のような貨幣経済化の潮流の中でも、村の生活における社会的共同性は生成され続けている。本発表では、40年間変化していないように見える、絨織布の「社会的生」に焦点をあてて、村の生活における社会的共同性について考察する。

アパデュライは、モノに意味を与えるのは人間であるというのは形式的真理であるが、意味はモノの形態、使用、軌跡に刻み込まれ、モノが人間社会の文脈を照らし出すので、モノそのものを追跡する、「方法的」フェティシズムが必要であるという[Appadurai 1986: 5]。彼はコモディティに焦点をあてているので、モノの追跡が線的であるが、本稿では、絨織布に焦点をあてながら、具体的な出来事のなかに同時に現れる諸事物を動態的布置像 *Konstellation* のなかに位置づけて、モノの追跡を行い、その布置像がアレゴリ的に照らす社会や人のありかたを考察する[ベンヤミン 2003]。絨織布に焦点をあてるのは、布は文化的価値や布置を持つ[Weiner & Schneider 1989]と同時に、近代社会、消費文化、「私人」の生成を、アレゴリ的に照らし出す、ファッションと私的コレクションに繋がるモノだからである[ベンヤミン 2003]。本発表ではモノのこのような特性を指して「社会的生」という。

2000年代に入ると、マレーシアに不法就労していた中年以上の男たちはほとんど戻り、女たちとともに、地域に広がる親族ネットワークと村の共同的社会生活を営んでいる。村人たちが集う機会は、おびただしい。重病人、負傷者、死者の発生。家づくり、誕生、結婚、死の儀礼の際に必ず行われる贈与交換。村外からの訪問者を迎える時。最近では、カトリックの堅信式、大学卒業、教会での結婚式後のパーティーにも贈与交換が一般化。集まる機会は増えている。そのたびに食事が振る舞われ、村人はその食事を作るための協力をする。集う人々の生き生きとした姿は衝撃的すらある。貨幣経済化したことによる社会の崩壊がしば

しば指摘されるが、この共同性の生成はどのように考えればいいのだろうか。

東インドネシアの他の地域どうよう、フローレス中部においても絨織布が伝統的に生産されているが、生産地は南海岸に限られている。ズパドリ村の人びとを含む「山の民 *ata ndu'a*」と「南海岸の民 *ata rhau ma'u*」の区分は、単に地理的なものではなく、文化的である。*Ndu'a* は、脈絡によっては、「田舎者の」「洗練されてない」という侮蔑語として機能する。1980年代までは、「海岸の民」と「山の民」の間には、儀礼化された、海産物と穀物の交換関係が見られた。「山の民」である村の人びとにとって、絨織布は、歴史的に外から入ってくる洗練されたモノである。ズパドリ村では、女性たちは、絨織布を筒状に縫ったザウォ *rhawo* を日々身に着けている。男性は、ズカ *rhuka* という縞織の筒状布を身に着ける。死者は必ず、女性ならばザウォで、男性ならばズカで包まれる。ザウォとズカは、姻戚間の贈与交換において、「妻／母の与え手」から贈られる不可欠の財である。「妻／母の与え手」から贈られる主な財はザウォとズカのほかに衣類、米、豚がある。「妻／母の受け手」からの交換財は、牛、馬、(豚、)ヤギ、鶏、金製品、象牙、現金である。「妻／母の受手」からの贈与は、それぞれ項目 *mbuku* 化され、常に声高に要求され、そのプロセスが熱い話題となってきたが、「妻／母の与え手」からの贈与は、要求されることもなく、語られることもない。また、贈り物の内容も、貨幣経済と消費文化の影響を受け、大きく変化したが、ザウォとズカに関しては変化が見られないようにみえる。本発表では具体的な出来事を取り上げて、絨織布に焦点をあてながら、歴史的現在のズパドリ村の社会的共同性について考察する。

参考文献

Appadurai, Arjun ed.

1986 *The Social Life of Things: Commodities in Cultural Perspective*. New York, New Rochelle, Melbourne, Sydney: Cambridge University Press.

ベンヤミン、ヴァルター

2003『パッサージュ論 I』今村仁司ほか訳 岩波書店

Weiner, Annette B. & Schneider J. ed.

1989 *Cloth and Human Experience*. Washington: Smithsonian Books.

キーワード モノ、社会的生、貨幣経済化、社会的共同性、贈与交換